

外国語活動の評価についての校内研修例

ここでは、教師による外国語活動の評価を充実させるための校内研修について例示します。
 まず、年度当初に全教員で当該年度の外語活動の年間指導計画と評価計画について共通理解します。その後、授業による研修を設定し、一つの観点について参観者全員で児童の活動の様子を観察して評価し、その記録を基に協議を行います。そして、他の観点についても同様な研修を年度内に行います。さらに、年度の最後には、次年度の外語活動の年間指導計画及び評価計画を検討します。
 全ての教員が第5学年及び第6学年の学級担任や外国語活動の担当となったときに、外国語活動の指導及び評価を適切に行うことができるよう、外国語活動の研修については、担当学年の教員だけでなく全教員で実施することが大切です。

第1回

- 研修のテーマ：外国語活動の評価計画の共通理解 () は中心となる教師
- ・外国語活動の年間指導計画及び評価計画について全教員で確認をする。(第5学年主任・第6学年主任)
 - ・研究授業の日程、研究授業における評価の観点について協議し決定する。(外国語活動推進担当)

第2回～

研修のテーマ：研究授業による評価方法の研修

授業者以外の全教員が研究授業を参観し、焦点化した観点(右の例では「外国語への慣れ親しみ」)に関する個々の児童の活動の様子を「外国語活動授業観察シート」に記入する。

4～5人のグループをつくり、研究授業の中で観察した児童の活動の様子についての記録を基に協議し、その後、協議内容を全教員で共有する。

児童名	観点の評価に関わる児童の活動の様子
□□□	日本語にない英語の音を発音できるように、何度も繰り返して練習していた。
△△△	英語の音声に慣れるように、CDの音声を熱心に聴いていた。

観点に関する児童の様子を記入する。

最終回 (まとめ)

- ・次年度の年間指導計画及び評価計画を検討する。(外国語活動推進担当)
- ・指導要録に記載した評価の文章について検討し、今後の参考として、資料にまとめる。

参考

東京都教育委員会作成資料

- 東京都小学校外国語活動推進委員会報告書
- 小学校外国語活動Q & A
- 小学校外国語活動の推進に向けて～外国語活動における評価の在り方～
- *詳しくは東京都教育委員会ホームページの「学び応援ページ、外国語活動」を御覧ください。
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/gaikokugo.htm>

東京都教育委員会で開催している研修など

- 教科等・教育課題研修 (専門性向上研修)
- 授業研究ヘルプデスク (授業づくりのための相談・資料提供)
- *詳しくは東京都教職員研修センターホームページを御覧ください。
<http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/>

小学校外国語活動の充実に向けて

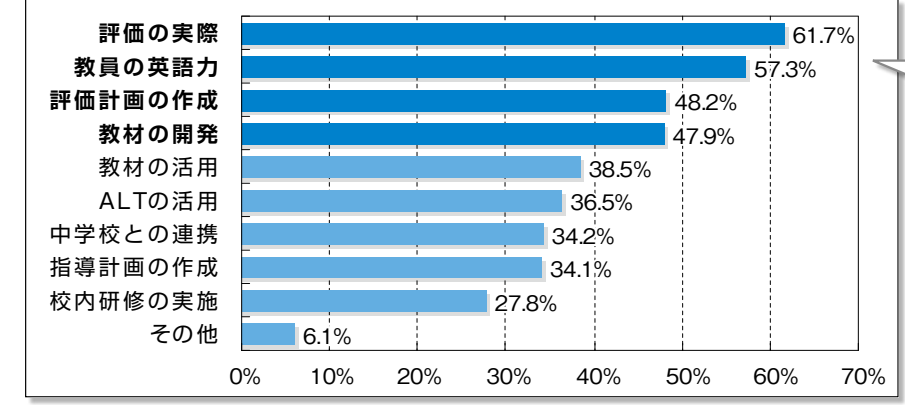
～適切な外国語活動の評価についての校内研修を進めていくために～

小学校外国語活動に関する調査

平成23年4月より新しい小学校学習指導要領が全面実施され、第5学年及び第6学年において外国語活動が始まりました。
 東京都教育委員会では、外国語活動の実施状況と実施上の課題を把握することを目的として、平成23年7月に都内全公立小学校を対象とした「小学校外国語活動に関する調査」を実施しました。

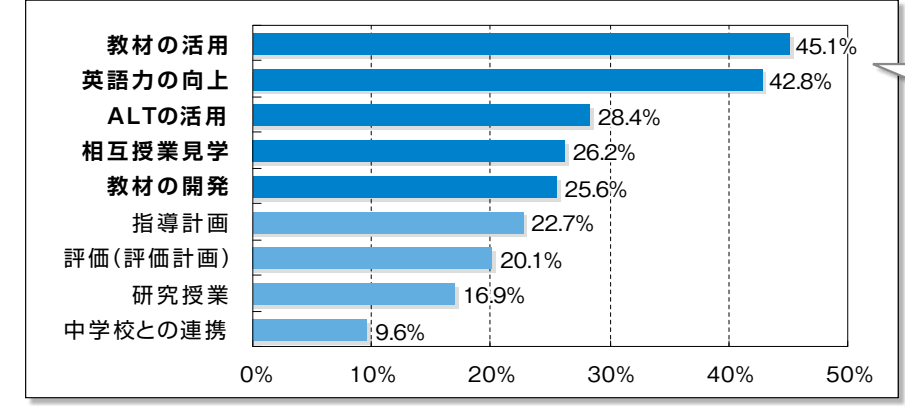
小学校外国語活動に関する調査の結果から

結果1 「外国語活動の実施における課題 (複数回答)」



結果1から、外国語活動の実施における課題として、「評価の実際 (評価場面・通知表への記載など)」(61.7%)、「教員の英語力」(57.3%)、「評価計画の作成」(48.2%)、「教材の開発」(47.9%)などを挙げる学校が多いことが分かりました。

結果2 「外国語活動に関わる校内研修の内容 (複数回答)」



結果2から、外国語活動に関わる校内研修の内容として、「教材の活用 (英語ノートの使い方など)」(45.1%)、「英語力の向上」(42.8%)、「ALTの活用」(28.4%)、「相互授業見学」(26.2%)、「教材の開発」(25.6%)などの授業に関する項目を挙げる学校が多いことが分かりました。

本調査の結果から、多くの小学校において外国語活動を実施していく中で、評価計画の作成や授業における評価、評価した内容をどのように通知表などに記載をしていくかということ課題としているにもかかわらず、校内研修で評価に関わる研修が十分に行われていないことが分かりました。
 このような現状から、各小学校においては、全ての教員が外国語活動の評価について正しい共通認識をもち、適切な評価を行うため、校内研修等における題材として外国語活動の評価を取り上げる必要があると考えられます。
 こうしたことから、東京都教育委員会では、校内研修等の資料として御活用いただくために本リーフレットを作成しました。

外国語活動の評価

Q & A

ここでは、外国語活動の評価計画の作成から、指導要録への記入まで、共通理解をしておくべき内容についてQ & Aの方式で具体的に示します。

Q1 外国語活動の評価を行うときには、どのようなことが大切ですか。

▶ A1 ▶▶▶

各教科と同様に、単元や各時間で求める児童の具体的な姿や各授業等で児童にどのような力を付けるのかという目標を明確に定め、その目標に応じた児童の活動の状況を評価します。そして、評価を通して児童一人一人の活動状況を把握し、新たな課題を設定するなど、指導と評価を一体化させることが大切です。

適切な評価を行うために、学習指導要領に示されている外国語活動の目標及び各学校の目標や、児童の実態を基に年間指導計画を作成し、単元や各時間の目標に照らして評価規準を設定します。

(参考) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 (国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成 23 年 3 月)

Q2 外国語活動にはどのような評価方法がありますか。

▶ A2 ▶▶▶

外国語活動の評価方法として、授業中の児童の行動観察や振り返りカードを活用した自己評価・相互評価等が考えられます。

行動観察では、英語の正確さや流ちょうさではなく、積極的に英語を使って活動をしたり、英語に慣れようとしていたりしている児童の姿を観察します。また、児童一人一人が作成した作品や授業で使用したワークシート、振り返りカード、活動の様子を撮った写真や映像の記録などを、ファイルにまとめ、保存することで、児童が学習活動を振り返るとともに、教師が評価の参考にしたり、今後の指導に生かしたりすることも考えられます。

児童に授業の自己評価をさせ、感想を書かせることで、児童の思いと教師の認識との違いについての点検を行うことができます。また、評価の観点にある「言語や文化に関する気付き」についての分析に生かすことができます。

振り返りカード (例)		
「行ってみたい国を紹介しよう」 年 組 名前		
授業日時	今日の学習 (4点満点で星をぬりましょう。)	感想
月 日()	世界には様々な国 (国旗) があることを知った。 外国に興味をもった。	★★★★ 国旗のもようなどにそれぞれ意味があり、興味がわきました。
月 日()	自分の行きたい国を友達に伝えようとした。 友達の行きたい国を聞いた。	★★★★☆ 自分の行きたい国と友達の行きたい国が一緒の人がいて楽しかったです。友達の行きたい国を聞いて「私も行きたい!」と思いました。
月 日()	一つの国について友達と協力して調べ、まとめた内容を発表するための練習をした。	★★☆☆☆ 本やパソコンで調べるのが大変でしたが、「この国には、こんな有名なものがあるんだ。」という発見がありました。
月 日()	カードを使って自分の行きたい国を友達に伝えた。 友達の行きたい国についての発表に興味をもって集中して聞いた。	☆☆☆☆ 日本での国の名前の言い方と英語での言い方は発音が違っていたのでおどろきました。友達の行きたい国が分かってよかったです。

Q3 評価の基準の具体的な例はありますか。

▶ A3 ▶▶▶

外国語活動については、「ここまでできれば B」、「これ以上なら A」というような基準の例は、国からは示されていません。これは外国語活動が、スキルの定着をねらいとしていないためであり、外国語活動の評価においては、児童の活動の様子などから、各観点に照らして児童のよいところを加点法で評価します。評価をした内容は、文章で記録しておくことが考えられます。

Q4 ペーパーテストで評価を行ってはいけないのですか。

▶ A4 ▶▶▶

外国語活動は、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するとともに、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際理解の基盤を培うことを目的としており、数値による評価は行いません。そのため、知識・理解の定着度を測るようなペーパーテストの結果を基に、外国語活動の評価を行うことは、適切ではありません。

Q5 毎回の授業において、全ての観点について評価をしなければならないのでしょうか。

▶ A5 ▶▶▶

単元や各授業の目標と授業の内容を基に、単元の観点別評価規準と評価計画を設定します。このとき、単元の活動内容の流れを考慮し、評価場面を設定していきます。その際には、児童の学習状況を的確に評価できるように、評価場면을多く設定し過ぎないようにします。そのため、1 単位時間の授業においては、一つから二つの評価場面を設定します。また、一つの単元を通して、必ず全ての観点について評価をしなければならないということもありません。

Q6 指導要録への記入は、どのようなことに注意すればよいのでしょうか。

▶ A6 ▶▶▶

外国語活動の記録については、設定された各観点に照らして、児童の学習状況における顕著な事項について、その特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記入します。

(参考) 小学校外国語活動の推進に向けて～外国語活動における評価の在り方～ (東京都教育委員会 平成 23 年 3 月)

外国語活動の記録		
	5	6
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語の挨拶や授業中に習った表現を使って積極的にALTや友達に話しかけていた。	英語を使ったゲームや活動の場面では、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えようと工夫していた。
外国語への慣れ親しみ	英語の歌や*チャンツのリズムが気に入り、一生懸命歌ったり、楽しそうにチャンツをしたりしていた。	英語の発音に慣れようとALTの発音の仕方をまねして何度も繰り返し練習していた。
言語や文化に関する気付き	外国の文化に興味をもち、ALTに対して出身国の衣装や食べ物などについて質問をしていた。	世界にはいろいろな文字があることを知り、身の回りにアルファベットやその他の文字がないか探していた。

← 各学校で観点を追加する場合に使用する。外国語活動の目標に照らして妥当であるものを設定する。

*チャンツ・・・一定のリズムにあわせて発音する活動

Q7 単元によって同じ児童の反応が異なる場合、よい部分を取り上げて指導要録に記入することは可能でしょうか。

▶ A7 ▶▶▶

ある単元において、行動観察や振り返りカードなどから「言語や文化に関する気付き」が見られたが、他の単元では見られないという場合において、「言語や文化に関する気付き」を取り上げて評価し、指導要録に記録することは可能です。また、「外国語への慣れ親しみ」についても同様です。

しかし、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」については、コミュニケーションを行おうという姿勢について年間を通して評価をすべきものであるため、ある単元で熱心に活動をしていたということのみを取り上げて評価し、指導要録に記入することは適切ではありません。